

第2回札幌文化芸術未来会議 議事概要

■日時：令和3年1月5日（火）15:00～20:00

（Zoomによるオンライン開催）

■出席者 委員：

いとう ちおり
伊藤 千織／伊藤千織デザイン事務所 代表

うるし たかひろ
漆 崇博／一般社団法人A I Sプランニング 代表理事

おおとも えり
大友 恵理／社会福祉法人ゆうゆう 芸術文化推進室 学芸員

おざき かなめ
尾崎 要／アクトコール株式会社 代表取締役

きの てつや
木野 哲也／ウタウカンパニー株式会社 代表

かじた し のぶ
カジタ シノブ／インタークロス・クリエイティブセンター ディレクター

こいえ まさのぶ
古家 昌伸／北海道新聞社編集局文化部長

こじま たつこ
小島 達子／株式会社 tatt 代表取締役

さかい しゅうじ
酒井 秀治／株式会社 SS 計画 代表取締役

さくま もとまさ
佐久間 泉真／大学生（市民委員）

はちじょう みなこ
八條 美奈子／札幌フルーツ協会 副会長

みん じんきょん
関 鎮京／北海道教育大学岩見沢校 准教授

もりしま ひろし
森嶋 拓／北海道コンテンポラリーダンス普及委員会 委員長

やまもと ゆうき
山本 雄基／画家

事務局：

札幌市市民文化局文化部長 有塚 広之

札幌市市民文化局文化部文化振興課長 木戸 拓史

札幌市市民文化局文化部文化振興課企画係長 信太 希久子

札幌市市民文化局文化部文化振興課企画係 木村 謙太

株式会社ノーザンクロス 島崎 伸洋

傍聴：2名

■議事概要：

1 札幌文化芸術未来会議とアンケートについて（事務局説明）

資料1を基に、札幌文化芸術未来会議やアンケートの目的について事務局から説明

- 未来会議やアンケートを通じ、文化芸術活動に関わっている方のご意見をお聞きし、札幌市のまちづくり戦略ビジョン・アクションプラン、毎年度の予算の検討に反映することで、できるだけ実態に即した施策や事業とし、活動されている方々の声を取り入れた札幌市の文化政策を少しでも

も進めていきたい。

○アンケートで広くニーズを把握し、それに基づいて、未来会議で施策の材料検討を行い、札幌市が未来会議の意見を踏まえ施策を検討し、具現化、実現化するという流れ。

○2020年度は、札幌市としてアンケートを行い、2021年度は、未来会議で、アンケートから得られた結果を素材に、12月ぐらいを目標に、市の施策や事業の材料となる内容について意見交換いただき、任期満了の令和4年3月までに意見交換のまとめを行っていただくイメージ。

2 アンケート内容について

今後実施するアンケートの項目について、第1回会議後にワーキンググループ（3回実施）で作成した案（資料3）を基に、ポイントとなる設問ごとに意見交換を行った。

なお、関委員長から札幌市からの希望により、個人向けだけではなく、団体や事業者向けの調査も行うことといたしたく、個人向け調査票を土台に団体・事業者向けアンケート案（資料4）も作成した旨を説明した。

(1) 分野について (Q1-1-1)

ア 文化

○小説と戯曲のところを創作とノンフィクション系に分けた。また、詩と短歌、俳句などを合わせて一つにし、翻訳を追加した。

イ 音楽

○多ジャンルにわたり過ぎているので、最初はクラシック、ポピュラーなど大分類で良いかと思った。その方がその他に入らない人を救済できるのではないかと思ったが、できるだけ書き出していこうという意見をいただいた結果、こうなった。

○分野を超えているとか、一つの分野ではないみたいな人たちがなるべくマルチアンサーできるようにしたいという意図があり、大分類ではなく広げた。

○例えば、ジャズと歌謡曲が一緒になっているが、この人たちを一緒にして理由は何なのかというのが簡単な言葉で一つあると、自分はここに属しているのだなというのが分かりやすいような気がする。

○それも思っていたがすごく難しく一括りをやめることさえあってもいいかと思った。

ウ 美術

○ファインアートとクラフトは業界が全然違うもので、工芸は販売に直接結びついたりするので、分けたほうが収入の偏りが出なくなると思う。美術と工芸は、多分、演劇と舞踊ぐらい違うジャンルだと思うので、それを一緒くたにしていいのかどうかというところを考え分けた。

○インスタレーション、パフォーマンス、アートプロジェクトなど、全部細かく分けていくことはすごく意義のあることだと思うが、一方で、ある程度の回答者数を確保できるように、特に広報活動に力を入れていかないと、10人以下になってしまい、せっかくここまで分け

られているのに、統計上、あまり効力がないとなりますとちょっと残念かなと思う。

○まずは分類分けを見てもらい、こういう分け方が存在するのだということを分かりつつ、今回のアンケートで必要なことと必要でないことを、全体を通して改めて考えて、今回はこのままいくのかどうするのかという方針の話をしたほうがよいのではないかな。

エ 舞踊

○モダンダンスとクラシックバレエを一緒にされるのは嫌という人もいるし、全部を分けたら15個になって、今度はその中に含まれていない私の踊りはどうなのみたいな感じにもなる。ダンスだけでまとめて、あと記述をしてもらえば、これはどういう意見なのだろうといったときに、この人は社交ダンスの人なのだと分かるので、ここまで細かく要るかなというのが正直なところ。

オ メディア芸術

○アニメーションと漫画はそのままで、前回あったコンピューターや映像を活用したアートというのは、美術分野の映像と写真との区別がつきづらかったので、デジタル技術を活用した芸術表現にしたらどうかという意見があり、そのまま採用した。そうすると、ゲームやサウンドアートもここに入るし、もうちょっと回答数が増えるのではないかなと思った。

カ 伝統芸能

○組踊や雅楽、能楽の数を考えると、例えば3人とか5人になってしまうと思うので、これも10個ぐらいあるものを二つ、三つに分けてしまったほうがいいのかという気もしている。先ほどの続きで、私も大分類プラス自由記述で、結果を見てその数を分けていったほうが見えてくるのかと思う。

キ 生活文化

○絵画、造形も工芸、クラフトもそうだが、(アートと生活文化の違いは)アーティストとしてやっているか、そうではなく、趣味で楽しんでいるかというくらいの分け方かなと思っていて。逆に、華道、茶道などは営利の人もいるだろうし、これは芸術だと言う人もいる。ちょっと微妙なので、生活文化という分け方は難しい。

ク デザイン

○細分化させてしまうとすごい量になってしまい、スクロールが大変になってしまう。なるべく少なくコンパクトにして、あとは書いてもらってはどうかと思っている。自己申告で言ってもらったものをカウントしていくという方法だと、あまり増えなくていいのかという感じ。ただ、そうすると、最後に集計するときに、何とかデザインとは何ですかという話になってくると思う。よって、分類作業をお手伝いするような、サポートしながらやっていくというのが今回の提案。

ケ 全体方針

○ダンスは記述にするけれども、音楽は記述にしないというわけにはいかない。大前提として、まず、どちらの方針にするのか、その上で決めていく必要がある。

○例えば、各ジャンルの大分類は何個まで、小分類は何個までと決めてくれれば、各ジャンルはそれに合わせて調整できると思う。

○これは、このジャンルをやっているアーティストにアンケートを取るのも、普通の一般のアンケートとは違い、ちょっと面倒くさいから減らすというものではない。

○大分類案も良いと思ったが、ワーキンググループでの検討も有り、各分野の大分類ごとのバランスが取れていれば、中分類というか、小分類というか、この案でも良いのではないかと。

(2) 文化芸術活動における主な役割について (Q1-2)

○販売や文化の経済も拾っておいたほうが良いと思った。また、(芸術文化活動の中に)販売する機能があるのが自然かなと思うので、足りないのではないかと。特に、古物商、ギャラリーは、展示するというよりは、販売するほうの意味合いが強いのではないかと。し、ギャラリストも、どちらかという、作品の売買を前提に自分のギャラリーを運営していたりもするので、そういう項目にまとめたほうが良いのではないかと。

(3) 文化芸術活動の発表や作品の販売を行う施設等について (Q1-5)

○文化芸術活動の実施や展開をしている施設・スペースというのは、要は室内。室内ではない選択肢を入れるために場所や土地というのを入れたらいいと思う。施設・スペース・土地とすると選べるのではないかと。

○場所だけでもいい気がする。

(4) 文化芸術活動の発表形態について (Q1-7-1)

○ワークショップ・アウトリーチ、レクチャー・講演会と一つでくくっているところに違和感を持ったので、ワークショップとアウトリーチを分けたら解決すると思った。

○発表形態のことだけを聞くのであればそれに特化したほうが良い。教育現場や教育活動など、特定のイメージを持って何かを聞きたいのであればもっと別な設問になるのかなという気がする。なので、この設問にアウトリーチと入れるのには違和感がある。

(5) 文化芸術活動による収入源について (Q2-1.1)

○選択肢「3文化芸術活動を生活の収入源としていない」と「4文化芸術活動には愛好者・ボランティア等としてかかわっている」をどう分けるかということが非常に悩ましい。「収入源にするつもりはあるが」となると、1と2は事実を聞いているのに、3は意識の問題となってくるがいかかか。

○4の自分が愛好者・ボランティアとして関わっているのか、それとも、生活の収入源としていないアーティストとして関わっているのかということも意識の問題になるので、4は削ったほうがスッキリすると思う。

○3は、例えば、生活の収入源ではないが、愛好者・ボランティア等として関わっているということで、全く関わっていない人はこのアンケートに関与しない。3と4をまとめてしまうという案は一つあると思う。

○3も生活の収入源としていないだと個人の意識の話。だから、文化芸術活動が生活の収入源に

なっていないという表現だともうちょっと分かりやすくなるかなと思う。

(6) 文化芸術活動において不足している・課題について (Q3-1~3)

○主語が分かりにくい。札幌市の文化芸術活動で不足しているものを聞いているのか、あるいは、あなたにとって文化芸術活動で不足していることを聞いているのか、どちらを課題として提示したほうがいいのか。

○質問の対象は個人でいいと思う。一人一人が感じている課題や不足している問題を集積したほうが、より共通の課題として捉えられる気がする。

○5番のPRの場というのがしっくりこない。ただ、告知の場に困っている方は結構いるかなとは思う。多分、個人レベルだと、告知のほうがりっくりくるし、広報情報誌とかでもいいと思う。

○マネジメントとプロデュースに関して、そこまでちゃんと分けて考えられているかという疑問があるがいかがか。

○ディレクターとプロデューサーは、本来、別な仕事で、それぞれの仕事を支える、回していくのがマネジャーの仕事。不足しているというのは、分業できないから一人の人がやっているだけで、本当だったらみんな分業したい。機能が違うものを細分化して載せておいたほうが、不足されているものがより明確に拾える気がする。

○コロナに特化したカテゴリーがあったらいいのではないかな。

(7) 文化芸術活動の発表・情報発信について (Q3-5)

○情報発信のメディアがどんどん変化していて、何を使っていいのかすごく悩むところ。10年前はメール、ちょっと前はフェイスブックやツイッターであったが、今はそれすらもどうなのかと。

○年齢層によって相当違うと思うので、主語を「あなたが」とすると良いのではないかな。

○あなたが情報発信を受け取る場合、どのような媒体を望みますかとひっくり返したら良いのではないかな。

(8) 文化芸術が社会にもたらす効果について (Q4-2)

○「社会包摂」という言葉については、芸術関係でも注目されていたりするが、具体的に、もっと項目を増やしてあるのが良いかと思う。

○（「多様な価値観の形成」について、）多様な価値観を理解し合うなどだとどうか。

○（「多様な価値観を理解し合う地域社会」について、）何となく理解するだけではなく、それによって心の豊かさみたいなものが生まれて、社会が豊かになるみたいなニュアンスが入るといいかなと。

○政治に対する働きかけや社会運動のきっかけとしての存在というのが入ってもいいかなと思った。

(9) 文化芸術活動に関して、現在、接点・関わりのある「社会分野」について (Q4-4-1)

○マルチアンサーだし、選んでくれるのではないかなと思うので、言葉を増やしてあげたほうが

いいかも知れない。

○明確なニーズとしてはなかったけれども、言われたらありかもなみたいことは、もしかしたらあるかも知れない。

(10) 文化芸術と社会分野の連携を推進していくための課題について (Q4-5)

○自分の分野の活動に精いっぱい、他分野と連携する余裕がないというのを選択肢として入れてほしい。

3 今後の進め方について

アンケートの完成は20日を目途としており、完成に向け、スラックなどのツールを用いながら、皆さんと更に議論をさせていただけたらなと思う。また、広報にも協力していただけたらと思う。